

3 2020年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備考	
第一項第一、二号	自主公演	定期演奏会	0回	0人	
		プロムナードコンサート	0回	0人	
		特別演奏会	24回	17,591人	<都響スペシャル2020, 2021> 東京文化会館 7回 サントリーホール 12回 東京芸術劇場 5回
		小計	24回	17,591人	
	共催・提携公演	オペラ夏の祭典2019-20 Japan*Tokyo*World	0回	0人	共催：東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館
		TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL2020 [サラダ音楽祭]	2回	1,117人	共催：東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 豊島区
		都響・調布シリーズ	0回	0人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
		都響×アプリコ	0回	0人	2020年度は公益財団法人大田区文化振興協会主催にて実施（依頼公演）
		ふれあいコンサート	0回	0人	共催：東京都、公益財団法人日本チャリティ協会
		ボクとわたしとオーケストラ	0回	0人	共催：株式会社いわき市民コミュニティ放送 NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会 いわき芸術文化交流館アリオス
		小計	2回	1,117人	
		依頼公演	11回	6,060人	地方公共団体、文化振興団体等
		海外公演	0回	0人	2020年ヨーロッパ・ツアーは中止 (アムステルダム、サンタンデル、エディンバラ)
	第一項第二号	学校訪問事業	29回	2,663人	主催：各区市教育委員会等
音楽鑑賞教室		0回	0人	主催：各区市教育委員会等 都内20区市、他1校	
マエストロ・ビジット		0回	0人		
音楽アーティスト交流教室		(0回)	—	会場：台東区立小学校 他 下記 注1 参照	
第一項第二、三号 及び第二項	映像配信等	0回 [34回]	—	新型コロナウイルス感染症による公演中止期間の取組、 チャリティ配信及び有料配信の実施	
	小規模演奏会等	30回	3,695人		
	公開リハーサル	0回	0人		
	公開ゲネプロ	0回	0人		
	放送・録音	CD、DVD用録音等	0回 [2回]	—	[] 内は同時録音
		CD、DVD制作	0回 [3回]	—	[] 内は同時録音、過年度録音等
		放送用録音、放送	0回 [1回]	—	[] 内は同時録音、過年度録音等
		小計	0回 [6回]	—	下記 注2 参照
	合計		96回	31,126人	

注1 音楽アーティスト交流教室は、台東区立及び豊島区立の小学校を都響OB楽員等が訪問するクリニック事業であり、
() 内はクリニックの回数で、外書きである。

注2 放送・録音の [] 内は自主公演等の同時録音あるいは過年度録音等であり、外書きである。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
- 二 青少年のための演奏事業
- 三 その他の音楽芸術普及事業
- 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業

3 第1項及び第2項の事業は東京都において行うものとする。

1 事業の概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響と緊急事態宣言の発令を受け、2020年4月から7月初旬に予定していた演奏会は全て中止した。感染拡大防止と演奏活動の両立を図るため、2020年6月11日・12日に東京文化会館で実施した「COVID-19（新型コロナウイルス）影響下における演奏会再開に備えた試演」の検証結果と専門家の助言を受け策定した「演奏会再開への行程表と指針」に沿って7月12日より段階的に演奏活動を再開した。なお、本指針は都響のWEBサイト上で報告・公開され、当時活動を休止していたアマチュア・オーケストラや学校の吹奏楽部等においても活動再開のためのガイドラインとして活用され、芸術文化都市東京を代表するオーケストラとして日本の音楽界に一定の役割を果たした。

定期演奏会及びプロムナードコンサートは、コンサートホールの収容人数を削減し、使用する客席の間隔を空けるなどの感染予防対策を講じる必要があったため、チケット（会員券も含む）を払い戻し、年度内に予定していた演奏会は全て「都響スペシャル2020」「都響スペシャル2021」へ変更して開催。合計24回、約1.7万人を動員した。

第一線で活躍する海外アーティストの来日が不可能となり、多くの演奏会は当初の計画どおりの実施は困難であったが、代替えのアーティストを手配し、曲目を変更するなど柔軟な対応を取り、演奏活動を継続した。演奏者と聴衆がホールで感動を共有し、希望を感じられたことは、コロナ禍の閉塞感を打破し、社会全体にオーケストラ、そして文化芸術の存在感を高めることに繋がった。

共催・提携公演は、東京都とともに「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」のオーケストラ公演を2公演開催した。当初計画ではオーケストラ公演のほか、ミニコンサート、ワークショップ等を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、規模を縮小した。

地方公共団体や文化振興団体などからの依頼公演は、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が主催する演奏会を中心に合計11公演に出演した。

8月に予定していた欧州3都市（アムステルダム、サンタンデール、エディンバラ）を巡る「2020年ヨーロッパ・ツアー」は、現地音楽祭が中止になったこと等から実施を中止した。

新型コロナウイルス感染症が急速に拡大する中、教育現場では校外学習の実施が困難な状況にあり、青少年を対象とした音楽鑑賞教室（オーケストラ公演）は全て中止となった。一方、教育現場の課外活動の実施が困難な状況に鑑み、新たな鑑賞プログラムとして学校訪問事業（アンサンブル公演）を都内にて合計29回実施した。

小規模演奏会は、JR上野駅構内や島しょ地域、東北の被災地での演奏を継続的に実施したほか、2019年度から開始した教育庁との連携事業や「サラダ音楽祭」でのミニコンサートなど合計30回実施した。

自主公演を中心に新たな鑑賞方法を定着化させるため、演奏映像のインターネット配信に力を入れ、過去の映像配信に加え、演奏会においてもライブ配信や配信用映像の収録を行った。さらに、公式YouTubeチャンネルを活用し、自宅等でも都響の演奏会を楽しめるコンテンツを積極的に配信し、ファンの拡大を図った。

新型コロナウイルス感染症の影響により中止公演は計142回（自主公演33回、共催・

提携公演 7 回、依頼公演 17 回、海外公演 3 回、音楽鑑賞教室 54 回、小規模演奏会 21 回、公開リハーサル 1 回、放送・録音 6 回)。度重なる演奏会の中止や内容変更など、未曾有の困難に見舞われた 1 年ではあったが、感染拡大予防の対策を徹底する等で演奏活動を継続的に展開。計 96 公演、約 3.1 万人に演奏をお届けした。

2 事業の内容

2020年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間96回にわたる演奏会を実施した。

I 公開演奏（定款第4条第1項第1、2号）

(1) 自主公演

ア 定期演奏会（中止）

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当初計画していた公演実施が困難であったため、年度内に予定していた演奏会は全て「都響スペシャル2020」「都響スペシャル2021」へ変更して開催した。

イ プロムナードコンサート（中止）

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当初計画していた公演実施が困難であったため、年度内に予定していた演奏会は全て「都響スペシャル2020」「都響スペシャル2021」へ変更して開催した。

ウ 特別演奏会（24回）

年度内に予定していた定期演奏会及びプロムナードコンサートは全て「都響スペシャル2020」「都響スペシャル2021」へ変更。年末恒例の「第九」公演は声楽・合唱における飛沫感染リスクを考慮し、演目を《くるみ割り人形》へ変更した。東京文化会館で7回、サントリーホールで12回、東京芸術劇場で5回、合計24回開催した。

コロナ禍による海外アーティストの来日不可などの要因により当初計画から出演者や曲目を変更し、演奏会を行った。また、奏者間のソーシャルディスタンスを確保するため、これまで都響がレパートリーとして高い評価を得ていた大規模編成の作品の演奏は減ったものの、実演機会の少ない佳作やオーソドックスな傑作を積極的に採り上げることで音楽芸術の更なる普及と演奏水準の向上を図った。

音楽監督6シーズン目となる大野和士は、10公演を指揮。いずれも高水準の演奏で聴衆から高い支持を受けた。演奏活動を休止してから東京文化会館で初の演奏会となった7月19日は、藤倉大の《三味線協奏曲》を日本初演し、現代作曲界の潮流を聴衆に届けた。9月12日公演は、ブルッフ没後100年を記念して演奏機会の希少な名曲《クラリネットとヴィオラのための二重協奏曲》を都響が誇る名手2人、三界秀実(元首席)と鈴木学(ソロ首席)とともに披露。息の合った熱演で観客を魅了した。また、ソロ・コンサートマスター矢部達哉の就任30周年を記念した9月16日公演では、ベートーヴェンの《ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲》(独奏: 矢部達哉、宮田大、小山実稚恵)と交響曲第3番《英雄》を指揮。完成度の極めて高い熱演が各方面で話題になるなど、都響の歴史において記念碑的な演奏会となった。さらに、都響の重要なレパートリーの一つであるマーラーから交響曲第4番をメインに、武満徹の《夢の時》と合唱作品であるブラームスの《アルト・ラプソディ》を組み合わせた2021年2月20日・22日公演は、充実した演奏と多彩なプログラムで高い評価を得た。

終身名誉指揮者小泉和裕は、これまで継続的に採り上げてきたロマン派の作曲家の作品から傑作交響曲（ブラームスの交響曲第3番、ドヴォルザークの交響曲第9番《新世界より》、メンデルスゾーンの交響曲第4番《イタリア》、チャイコフスキー交響曲の第2番《小ロシア》）を指揮した。

桂冠指揮者エリアフ・インバルは、2021年1月12日・13日公演でマーラー、ショスタコーヴィチと並ぶメインレパートリーから、ブルックナーの交響曲第3番を演奏機会が減多にない初稿版で採り上げ、説得力ある演奏で絶賛を博した。

また、ベートーヴェン生誕250年のアニヴァーサリー・イヤーに交響曲を大野和士（第1番～第3番）、小泉和裕（第4番、第5番）、エリアフ・インバル（第6番、第7番）の指揮で集中的に採り上げたことも2020年度の話題となった。

なお、首席客演指揮者アラン・ギルバートは定期演奏会2公演と「第九」3公演に登壇予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に係る出入国制限措置や海外からの入国に関して不透明な状況が続いていることから年度内の来日を断念した。

客演指揮者を迎えた各公演では、バラエティ豊かなプログラムを展開した。10月11日公演は、長年にわたり都響と信頼関係にある梅田俊明が登壇。日本を代表するピアニストの一人である田部京子を独奏に迎えてのベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番など、聴きなじみのある名作を集めたプログラムで作品の新たな魅力を伝えた。オペラ指揮者としても確固たる地位を築く沼尻竜典はワーグナーの《タンホイザー》序曲、モーツァルトのピアノ協奏曲第20番（独奏：アンドレイ・ガヴリーロフ）、ブラームスの交響曲第4番を指揮（11月28日公演）。ウィーンで学んだブルガリア出身のロッセン・ゲルゴフは、ロマン派の作品群を採り上げた（12月10日公演）。川瀬賢太郎は2021年2月11日公演に出演。演奏機会が稀な《ウェリントンの勝利》、ヴァイオリニスト金川真弓を独奏に迎えてのヴァイオリン協奏曲、交響曲第8番というオール・ベートーヴェン・プログラムで聴衆を惹きつけた。3月15日公演には、尾高忠明が28年ぶりに都響主催公演に登壇し、イギリス音楽の第一人者であるマエストロの十八番、エルガーの交響曲第1番と2020年に生誕90年を迎えた武満徹の《系図》（語り：田幡妃菜、アコーディオン：大田智美）という意欲的なプログラムを披露した。初共演となった鈴木優人は、ラヴェルの《マ・メール・ロワ》、プーランクのピアノ協奏曲（独奏：阪田知樹）、ムソルグスキー（ラヴェル編曲）の組曲《展覧会の絵》指揮し、話題を呼んだ（3月20日公演）。日本を代表する指揮者の一人である下野竜也は3月25日公演に登壇し、ブラームスの交響曲第1番を中心とした堂々たるシンフォニーコンサートで2020年度シーズンを締めくくった。

（2）共催・提携公演（2回）

ア オペラ夏の祭典2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World（中止）

日本を代表する各地の劇場と連携して展開する国際的なオペラプロジェクトとして、音楽監督大野和士の指揮で、ワーグナーの超大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止した。なお、本公演は2021年8月に開催することが決定している。

イ TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭] (2回)

芸術文化都市東京の魅力伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核プログラムとして、東京都とともに東京芸術劇場及び豊島区と連携し、「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」を2018年度より継続的に開催。この「サラダ音楽祭」では、サラダ=SaLaDの由来である「Sing and Listen and Dance〜歌う！聴く！踊る！」をコンセプトに、赤ちゃんから大人まで誰もが参加して一緒に楽しめるオーケストラコンサートやワークショップなど、様々なプログラムを展開している。

当初計画ではオーケストラ公演のほか、ミニコンサート、ワークショップ等をスケールアップして開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響受け、規模を縮小して開催した。

オーケストラ公演として、0歳児から入場可能なコンサート「OK！オーケストラ」(1公演)と演出振付家の金森穰が率いる日本を代表するダンスカンパニーNoism Company Niigata(ノイズム・カンパニー・ニイガタ)とコラボレーションした音楽祭「メインコンサート」(1公演)の合計2公演を行ったほか、池袋西口公園の野外劇場「グローバルリングシアター」などで弦楽四重奏や声楽アンサンブル等の無料ミニコンサートを開催した。さらに、映像による「歌」や「ダンス」、「演奏」のワークショップを配信した。

ウ 都響・調布シリーズ(中止)

多摩地域での演奏活動の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携を図り地域との繋がりを深めている。2001年度から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施している。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止した。

エ ふれあいコンサート(中止)

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度は37回目の開催を2021年3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。

オ ボクとわたしとオーケストラ(中止)

東日本大震災後の2012年2月に、いわき市内全域の小中学生を対象とした初めてのオーケストラ公演を開催して以来、福島県いわき市の子供たちを音楽で励ます目的で実施している。2016年度から、株式会社いわき市民コミュニティ放送(SEA WAVE FM いわき)、NPO法人いわき子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオスとの共催として本年度は2021年2月に実施(午前の部:小学生、午後の部:中学生の計2回)予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止した。

(3) 依頼公演(11回)

フレッシュ名曲コンサート(9月)、大田区アプリコ公演(10月)、メトロポリス・クラシックス公演(11月)、日本赤十字社献血チャリティ・コンサート公演(2021

年1月)、都民芸術フェスティバル公演(2021年2月)に出演した。加えて、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催するプレミアムコンサート(計5回)のほか、東京文化会館の「響の森」コンサート(2021年1月)といった多彩な公演に出演した。

(4) 海外公演(中止)

欧州3都市(アムステルダム、サンタンデル、エディンバラ)を巡る「2020年ヨーロッパ・ツアー」は、現地音楽祭が中止になったこと等からツアーの実施を中止した。

II 青少年のための演奏(定款第4条第1項第2号)

(1) 学校訪問事業(29回)

音楽鑑賞教室等の校外学習や課外活動の実施が困難な教育現場の状況に鑑み、校内での小規模アンサンブルでの鑑賞プログラムとして小・中学校の児童・生徒を対象に、音楽鑑賞教室の代替として、新宿区・稲城市で合計29公演を実施した。

(2) 音楽鑑賞教室(中止)

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会などと打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音楽まで、プログラム、企画、構成など工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度は校外学習や課外活動の実施が困難な状況にあり、全公演の開催を中止とした。

(3) マエストロ・ビジット(0回)

都響指揮者(マエストロ)自らが、楽員とともに都内小・中学校等を訪問して特別授業を行い、子供たちとの対話を通じて音楽とオーケストラへの理解と音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取組である。本年度は実施困難な状況のため、実施していない。

(4) 音楽アーティスト交流教室(0回)

都響楽員OB等が小学校を訪問し、楽器の演奏指導を行う事業である。2005年度から台東区内で、2010年度からは対象地域を豊島区にも拡大して実施している。本年度は実施困難な状況のため、実施していない。

III その他の事業(定款第4条第1項第2、3号及び第2項)

(1) 映像配信等(〔34回〕(〔〕内は同時録音、過年度録音等))

新型コロナウイルス感染症により演奏活動を中止していた間の取組として、都響が創立以来、力を入れて取り組んでいる小中学生を対象とした演奏会「音楽鑑賞教室」の事前学習用に各学校へ無料で貸出している都響オリジナルDVD「探検!発見!オー

ケストラの「ヒ・ミ・ツ」の映像を公式 YouTube チャンネルにて配信した。教育現場で自宅学習用の教材として活用され、特に若年層を中心に認知度が向上した。また、創立初期から最近の公演まで、都響歴代指揮者たちとの貴重な演奏音源を自宅等でも楽しめるホームコンサートプログラム「都響ラジオ」や、コロナ禍において音楽活動を継続する様子を演奏会のダイジェスト映像とともに辿る「都響ノート～コロナ禍における演奏活動の記録～」を公式 YouTube チャンネルにて配信し、ファンの拡大を図った。

さらに、7月開催の「都響スペシャル 2020 (7/12)、(7/19)」で収録した映像のチャリティ配信に加え、9月16日のソロ・コンサートマスター矢部達哉の就任30周年を記念したメモリアルコンサートでは都響初となる演奏会のライブ配信を実施。コロナ禍で演奏会場に来場できない方や演奏会のチケットが手に入らなかった方、普段都響の演奏会に足を運んだことのない方へ向け、都響の演奏に触れる機会を創出した。

(2) 小規模演奏会等 (30回)

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、2002年度から小規模アンサンブルを中心としたアウトリーチ型の演奏会を積極的に実施している。

多摩・島しょや病院等、演奏会場に来場できない方々に直接音楽を届ける出張演奏会は、コロナ禍により一部を除き開催を中止とした。一方で、医療現場の最前線に立つ医療従事者を応援するための「メトロ医療従事者を労うコンサート」(主催:公益財団法人メトロ文化財団)、JR 駅構内エキュート上野で開催した「ランチタイムコンサート」(主催:JR 東日本リテールネット株式会社)など、多くの方々に演奏を楽しんでいただいた。[サラダ音楽祭]では、池袋エリアの商業施設で気軽に楽しめるミニコンサートを実施した。

加えて、2019年度から開始した、教育庁との連携によるオリンピック・パラリンピック教育推進支援事業では都内小学校でアウトリーチ活動を行った。また、大田区や葛飾区、三宅村の学校に出向き室内楽公演を実施したほか、被災地支援として宮城県石巻市での演奏会を本年度も実施し好評を得た。

(3) 公開リハーサル・ゲネプロ (中止)

TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロ及び依頼公演で公開リハーサルを実施する予定であったが、開催を中止した。

(4) 放送・録音 ([6回] ([] 内は同時録音、過年度録音等))

大野和士指揮の過去の演奏会から厳選した2曲(ベートーヴェンの交響曲第6番《田園》、ブラームスの交響曲第4番)が元日に TOKYO MX「都響 Morning Concert」でノーカット放送され、大きな反響を呼んだほか、CD化を想定し同時録音を実施した。